

教養教育科目実施要項（データサイエンス系）

1. 課題発見科目の目的

課題発見科目では情報科学、人文科学、自然科学、及び学際的な分野の知識を理解し、現代社会が抱える諸課題を主体的に探究し、俯瞰的に捉える思考力を育成する。

2. 授業概要

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を情報倫理に則り収集・分析・評価し、効果的に活用する数量的スキルを育成する。

3. 育成する資質・能力（ディプロマポリシーとの関連）

教養教育科目と本学の教育方針は以下の 10 項目によって関連付けられます。データサイエンス系に属す科目は次の 4 項目に重点を置き、本学の教育目標の達成に貢献します。

表 1 ディプロマポリシーとの関連

人間性・社会性・国際性（大学の教育理念）		
○	(1) 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
	(2) チームワーク	他者と協調・協働して行動できる。
	(3) 多文化・異文化理解	多文化・異文化に関する知識を理解できる。
主体的に学ぶ力		
○	(1) 主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
コミュニケーション能力		
	(1) 言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
	(2) 他者理解・自己表現力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
課題発見・解決力		
◎	(1) 情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
◎	(2) 問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決することができる。
知識・技能		
	(1) 文化・社会・自然・地域の理解	文化、社会、自然、地域における基本的な知識を体系的に理解するとともに、自己の存在をそれらと関連つけて理解することができる。
	(2) 専門知識・技能	専門分野に関する知識を理解し、身につけた技能（実践力）を活用できる。

4. 学習目標

上記の「授業概要」及び「育成する資質・能力」は、科目をとおして学生が身につける資質・能力を指しています。そこでこの資質・能力を成績評価に用いる評価の観点として 3～6 項目程度に要約してください。それが科目の学習目標になります。

評価の観点に関する表現を以下に例示します。語尾を「～することができる」と表記することによって学生に学習の目標をより明確に伝えることができます。

<例>

- ・データサイエンス・AIの基礎を理解できる。
- ・インターネットを通して多様な情報を収集，取捨選択し，それらを効果的に活用できる。
- ・情報セキュリティ・情報倫理について基礎知識を持ち，それに基づいて行動できる。
- ・統計学の初歩的な技能（基礎統計量，初歩的検定の意味等）を理解し，分析に活用することができる。

5. 授業計画

授業計画では、科目全体をとおして学生が取り組む課題の数や内容を明記してください。学生がその活動を事前に把握できるように、各回の授業内容と授業方法では、各回のトピックと活動に加え、課題解決のプロセスについても説明してください。また、授業時間外の学習活動について、標準的な学習時間とともに、具体的な内容を記載してください。

資料「令和6年度以降の学士課程編成の方針」に明記されているとおり、本学の学士課程教育は教育方法として「ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）」を積極的に導入し、主体的な学びへと教育の質的転換を図ることを基本方針としています。その実現に向けてアクティブラーニング導入率80%を目標に掲げています。

課題発見科目はその中心的役割を担う科目群のひとつであり、データサイエンス系科目では以下の表2が示すタイプ2、あるいはタイプ3のアクティブラーニングを20%（15回であればそのうち3回）以上の授業で取り入れることが求められています。

表2 アクティブラーニングの3タイプ

タイプ1〔教員主導〕
双方向のコミュニケーションをともなうもの（質問、対話、宿題、小テスト、クイズなど）。 少人数教育（10人程度）。
タイプ2〔教員学生協働〕
学生間の相互学習をともなうもの（グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなど）。
タイプ3〔学生主導〕
教室外の調査研究をともなうもの（フィールド学習、プロジェクト学習、協働学習、ケースメソッドなど）。 TA活用。

出典：溝上（2014：71）表3-1を基に作成。

文献：溝上慎一，2014，『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。

6. 成績評価方法

成績評価では多様な学習評価方法を組み合わせ、それぞれについて評価手段、実施内容、評価比率、学習目標との対応を明記してください。それによって学生は教員による成績評価のプロセスを容易に把握することができます。

7. 成績評価基準

成績評価は下記の基準を用いて可否を判定するようにしてください。

秀：評点90点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）

優：評点 80～89 点（学習目標を優秀な水準で達成している）

良：評点 70～79 点（学習目標を良好に達成している）

可：評点 60～69 点（学習目標の必要最低限は達成している）

不可：評点 60 点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）

保留：評点が 30 点以上 59 点までの者に対しては再評価を実施する。

秀、優、良、可が合格、不可が不合格を意味します。また、合格するには所定の時間数（全体の 75%以上）授業に出席し、課題のレポートを提出し、中間試験及び期末試験を受験することが前提です。なお、レポート及び試験等における不正行為が認められた場合、その学生は宮崎大学学務規則により懲戒とし、本科目の成績は不可となります。

8. 参考となる 2023 年度開講の科目

シラバスの作成に当たっては、科目群「現代社会の課題」に属す科目をはじめ、隣接する分野において開設されている既存の科目のものをぜひ参考にしてください。以下はその一例です。WebClass にシラバス検索機能があります。

「データサイエンス入門」（講義コード：kkhj1、担当者：田村宏樹）

「統計学入門」（講義コード：kkd41、担当者：藤井良宜）

「情報・データリテラシーE(2)」（講義コード：kk0h2、担当者：秋山博臣）

「Python プログラミング演習」（講義コード：kkdd1、担当者：松澤英之）

宮崎大学 シラバス検索

シラバス検索 English

検索 リセット

開講年度 2023年 ▼

担当教員

授業科目

キーワード

学部

基礎教育 教育学部 医学部 工学部 農学部 地域資源創成学部 日本語科目等 畜産別科

教員免許取得科目（農工）

研究科

教育学研究科 看護学研究科 工学研究科 農学研究科 医学獣医学総合研究科 農学工学総合研究科

地域資源創成学研究科

図1 WebClass のシラバス検索画面

教養教育科目実施要項（人文・社会・芸術系）

1. 課題発見科目の目的

課題発見科目では情報科学、人文科学、自然科学、及び学際的な分野の知識を理解し、現代社会が抱える諸課題を主体的に探究し、俯瞰的に捉える思考力を育成する。

2. 授業概要

人文、社会、及び芸術分野の知見に触れ、人間の理解及び自己と社会の関係について論理的に考える力を育成する。

3. 育成する資質・能力（ディプロマポリシーとの関連）

教養教育科目と本学の教育方針は以下の10項目によって関連付けられます。人文・社会・芸術系に属す科目は次の5項目に重点を置き、本学の教育目標の達成に貢献します。

表1 ディプロマポリシーとの関連

人間性・社会性・国際性（大学の教育理念）		
	(1) 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
	(2) チームワーク	他者と協調・協働して行動できる。
○	(3) 多文化・異文化理解	多文化・異文化に関する知識を理解できる。
主体的に学ぶ力		
○	(1) 主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
コミュニケーション能力		
	(1) 言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
○	(2) 他者理解・自己表現力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
課題発見・解決力		
	(1) 情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
◎	(2) 問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決することができる。
知識・技能		
○	(1) 文化・社会・自然・地域の理解	文化、社会、自然、地域における基本的な知識を体系的に理解するとともに、自己の存在をそれらと関連づけて理解することができる。
	(2) 専門知識・技能	専門分野に関する知識を理解し、身につけた技能（実践力）を活用できる。

4. 学習目標

上記の「授業概要」及び「育成する資質・能力」は、科目をとおして学生が身につける資質・能力を指しています。そこでこの資質・能力を成績評価に用いる評価の観点として3～6項目程度に要約してください。それが科目の学習目標になります。

評価の観点に関する表現を以下に例示します。語尾を「～することができる」と表記することによって学生に学習の目標をより明確に伝えることができます。

<例>

- ・美術作品について、単なる印象の記述ではなく、適切な知識にもとづいた理論的解説ができる。
- ・近代日本の外交について授業で学んだことに基づき、現代社会の課題を如何に解決するか、未来に向けて何をすべきかなどについて考察できる。
- ・他の学生とグループワークに取り組み、現代社会の日本における家族の在り方をめぐる様々な考え方を理解し、それを論理的に整理した上で報告することができる。

5. 授業計画

授業計画では、科目全体をとおして学生が取り組む課題の数や内容を明記してください。学生がその活動を事前に把握できるように、各回の授業内容と授業方法では、各回のトピックと活動に加え、課題解決のプロセスについても説明してください。また、授業時間外の学習活動について、標準的な学習時間とともに、具体的な内容を記載してください。

資料「令和6年度以降の学士課程編成の方針」に明記されているとおり、本学の学士課程教育は教育方法として「ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）」を積極的に導入し、主体的な学びへと教育の質的転換を図ることを基本方針としています。その実現に向けてアクティブラーニング導入率80%を目標に掲げています。

課題発見科目はその中心的役割を担う科目群のひとつであり、人文・社会・芸術系科目では以下の表2が示すタイプ2、あるいはタイプ3のアクティブラーニングを20%（15回であればそのうち3回）以上の授業で取り入れることが求められています。

表2 アクティブラーニングの3タイプ

タイプ1〔教員主導〕
双方向のコミュニケーションをともなうもの（質問、対話、宿題、小テスト、クイズなど）。 少人数教育（10人程度）。
タイプ2〔教員学生協働〕
学生間の相互学習をともなうもの（グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなど）。
タイプ3〔学生主導〕
教室外の調査研究をともなうもの（フィールド学習、プロジェクト学習、協働学習、ケースメソッドなど）。 TA活用。

出典：溝上（2014：71）表3-1を基に作成。

文献：溝上慎一，2014，『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。

6. 成績評価方法

成績評価では多様な学習評価方法を組み合わせ、それぞれについて評価手段、実施内容、評価比率、学習目標との対応を明記してください。それによって学生は教員による成績評価のプロセスを容易に把握することができます。

7. 成績評価基準

成績評価は下記の基準を用いて可否を判定するようにしてください。

- 秀：評点 90 点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）
- 優：評点 80～89 点（学習目標を優秀な水準で達成している）
- 良：評点 70～79 点（学習目標を良好に達成している）
- 可：評点 60～69 点（学習目標の必要最低限は達成している）
- 不可：評点 60 点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）
- 保留：評点が 30 点以上 59 点までの者に対しては再評価を実施する。

秀、優、良、可が合格、不可が不合格を意味します。また、合格するには所定の時間数（全体の 75%以上）授業に出席し、課題のレポートを提出し、中間試験及び期末試験を受験することが前提です。なお、レポート及び試験等における不正行為が認められた場合、その学生は宮崎大学学務規則により懲戒とし、本科目の成績は不可となります。

8. 参考となる 2023 年度開講の科目

シラバスの作成に当たっては、科目群「現代社会の課題」に属す科目をはじめ、隣接する分野において開設されている既存の科目のものをぜひ参考にしてください。以下はその一例です。WebClass にシラバス検索機能があります。

「美術と文化：美術鑑賞から異文化理解へ」（講義コード：kk721、担当者：石川千佳子）

「現代社会と歴史（1）：近現代日本とアジア（外交と戦争）」（講義コード：kk771、担当者：関周一）

「現代社会と家族」（講義コード：kk791、担当者：松岡崇暢）

図1 WebClass のシラバス検索画面

教養教育科目実施要項（自然・生命・技術系）

1. 課題発見科目の目的

課題発見科目では情報科学、人文科学、自然科学、及び学際的な分野の知識を理解し、現代社会が抱える諸課題を主体的に探究し、俯瞰的に捉える思考力を育成する。

2. 授業概要

自然、生命、及び技術分野の知見に触れ、自然環境、生命現象及び先端技術の今日的課題を科学的に考える力を育成する。

3. 育成する資質・能力（ディプロマポリシーとの関連）

教養教育科目と本学の教育方針は以下の10項目によって関連付けられます。自然・生命・技術系に属す科目は次の5項目に重点を置き、本学の教育目標の達成に貢献します。

表1 ディプロマポリシーとの関連

人間性・社会性・国際性（大学の教育理念）		
	(1) 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
○	(2) チームワーク	他者と協調・協働して行動できる。
	(3) 多文化・異文化理解	多文化・異文化に関する知識を理解できる。
主体的に学ぶ力		
○	(1) 主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
コミュニケーション能力		
	(1) 言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
○	(2) 他者理解・自己表現力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
課題発見・解決力		
	(1) 情報リテラシー	情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
◎	(2) 問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決することができる。
知識・技能		
○	(1) 文化・社会・自然・地域の理解	文化、社会、自然、地域における基本的な知識を体系的に理解するとともに、自己の存在をそれらと関連づけて理解することができる。
	(2) 専門知識・技能	専門分野に関する知識を理解し、身につけた技能(実践力)を活用できる。

4. 学習目標

上記の「授業概要」及び「育成する資質・能力」は、科目をとおして学生が身につける資質・能力を指しています。そこでこの資質・能力を成績評価に用いる評価の観点として3～6項目程度に要約してください。それが科目の学習目標になります。

評価の観点に関する表現を以下に例示します。語尾を「～することができる」と表記することによって学生に学習の目標をより明確に伝えることができます。

<例>

- ・環境及び生命の事象について多面的に物事を考えることができること。
- ・他者の考えを理解し、自らの考えを表現できること。
- ・生物の多様性について進化学的視点から説明できること。
- ・野生生物や家畜・ペットとヒトとの間に生じている現代社会の問題について、講義、グループワークを通して整理・理解できること。

5. 授業計画

授業計画では、科目全体をとおして学生が取り組む課題の数や内容を明記してください。学生がその活動を事前に把握できるように、各回の授業内容と授業方法では、各回のトピックと活動に加え、課題解決のプロセスについても説明してください。また、授業時間外の学習活動について、標準的な学習時間とともに、具体的な内容を記載してください。

資料「令和6年度以降の学士課程編成の方針」に明記されているとおり、本学の学士課程教育は教育方法として「ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）」を積極的に導入し、主体的な学びへと教育の質的転換を図ることを基本方針としています。その実現に向けてアクティブラーニング導入率80%を目標に掲げています。

課題発見科目はその中心的役割を担う科目群のひとつであり、自然・生命・技術系科目では以下の表2が示すタイプ2、あるいはタイプ3のアクティブラーニングを20%（15回であればそのうち3回）以上の授業で取り入れることが求められています。

表2 アクティブラーニングの3タイプ

タイプ1〔教員主導〕
双方向のコミュニケーションをともなうもの（質問、対話、宿題、小テスト、クイズなど）。 少人数教育（10人程度）。
タイプ2〔教員学生協働〕
学生間の相互学習をともなうもの（グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなど）。
タイプ3〔学生主導〕
教室外の調査研究をともなうもの（フィールド学習、プロジェクト学習、協働学習、ケースメソッドなど）。 TA活用。

出典：溝上（2014：71）表3-1を基に作成。

文献：溝上慎一，2014，『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。

6. 成績評価方法

成績評価では多様な学習評価方法を組み合わせ、それぞれについて評価手段、実施内容、評価比率、学習目標との対応を明記してください。それによって学生は教員による成績評価のプロセスを容易に把握することができます。

7. 成績評価基準

成績評価は下記の基準を用いて可否を判定するようにしてください。

- 秀：評点 90 点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）
- 優：評点 80～89 点（学習目標を優秀な水準で達成している）
- 良：評点 70～79 点（学習目標を良好に達成している）
- 可：評点 60～69 点（学習目標の必要最低限は達成している）
- 不可：評点 60 点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）
- 保留：評点が 30 点以上 59 点までの者に対しては再評価を実施する。

秀、優、良、可が合格、不可が不合格を意味します。また、合格するには所定の時間数（全体の 75%以上）授業に出席し、課題のレポートを提出し、中間試験及び期末試験を受験することが前提です。なお、レポート及び試験等における不正行為が認められた場合、その学生は宮崎大学学務規則により懲戒とし、本科目の成績は不可となります。

8. 参考となる 2023 年度開講の科目

シラバスの作成に当たっては、科目群「現代社会の課題」に属す科目をはじめ、隣接する分野において開設されている既存の科目のものをぜひ参考にしてください。以下はその一例です。WebClass にシラバス検索機能があります。

「環境と生命」（講義コード：kk601、担当者：オムニバス）

「生物科学」（講義コード：kk901、担当者：西田伸）

宮崎大学 シラバス検索

シラバス検索 English

検索 リセット

開講年度 2023年

担当教員

授業科目

キーワード

学部

基礎教育 教育学部 医学部 工学部 農学部 地域資源創成学部 日本語科目等 畜産別科

教員免許取得科目（農工）

研究科

教育学研究科 看護学研究科 工学研究科 農学研究科 医学獣医学総合研究科 農学工学総合研究科

地域資源創成学研究科

図1 WebClass のシラバス検索画面

教養教育科目実施要項（地域・国際・学際系）

1. 課題発見科目の目的

課題発見科目では情報科学、人文科学、自然科学、及び学際的な分野の知識を理解し、現代社会が抱える諸課題を主体的に探究し、俯瞰的に捉える思考力を育成する。

2. 授業概要

地域、国際、及び学際分野の知見に触れ、現代社会が抱える諸課題を複眼的に考える力を育成する。

3. 育成する資質・能力（ディプロマポリシーとの関連）

教養教育科目と本学の教育方針は以下の 10 項目によって関連付けられます。地域・国際・学際系に属す科目は次の 5 項目に重点を置き、本学の教育目標の達成に貢献します。

表 1 ディプロマポリシーとの関連

人間性・社会性・国際性（大学の教育理念）	
<input type="checkbox"/>	(1) 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
<input type="checkbox"/>	(2) チームワーク 他者と協調・協働して行動できる。
<input type="checkbox"/>	(3) 多文化・異文化理解 多文化・異文化に関する知識を理解できる。
主体的に学ぶ力	
<input type="checkbox"/>	(1) 主体的に学ぶ力 自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できる。
コミュニケーション能力	
<input type="checkbox"/>	(1) 言語リテラシー 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
<input type="checkbox"/>	(2) 他者理解・自己表現力 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
課題発見・解決力	
<input type="checkbox"/>	(1) 情報リテラシー 情報通信技術 (ICT) を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
<input checked="" type="checkbox"/>	(2) 問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決することができる。
知識・技能	
<input type="checkbox"/>	(1) 文化・社会・自然・地域の理解 文化、社会、自然、地域における基本的な知識を体系的に理解するとともに、自己の存在をそれらと関連づけて理解することができる。
<input type="checkbox"/>	(2) 専門知識・技能 専門分野に関する知識を理解し、身につけた技能 (実践力) を活用できる。

4. 学習目標

上記の「授業概要」及び「育成する資質・能力」は、科目をとおして学生が身につける資質・能力を指しています。そこでこの資質・能力を成績評価に用いる評価の観点として 3～6 項目程度に要約してください。それが科目の学習目標になります。

評価の観点に関する表現を以下に例示します。語尾を「～することができる」と表記することによって学生に学習の目標をより明確に伝えることができます。

<例>

- ・ 大学卒業後のキャリアをイメージしながら主体的に考えることができる。

- ・他者とのかかわりを通じて、さまざまな価値観や考え方を理解する力を身につける。
- ・独自に文献を収集し、必要な情報を要約し、その中の事実や考え方を目的に応じて活用することができる。
- ・課題に対する解決策を検討する過程において、豊富な知識を活用しながら多くの選択肢から妥当なものを注意深く吟味することができる。

5. 授業計画

授業計画では、科目全体をとおして学生が取り組む課題の数や内容を明記してください。学生がその活動を事前に把握できるように、各回の授業内容と授業方法では、各回のトピックと活動に加え、課題解決のプロセスについても説明してください。また、授業時間外の学習活動について、標準的な学習時間とともに、具体的な内容を記載してください。

資料「令和6年度以降の学士課程編成の方針」に明記されているとおり、本学の学士課程教育は教育方法として「ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）」を積極的に導入し、主体的な学びへと教育の質的転換を図ることを基本方針としています。その実現に向けてアクティブラーニング導入率80%を目標に掲げています。

課題発見科目はその中心的役割を担う科目群のひとつであり、地域・国際・学際系科目では以下の表2が示すタイプ2、あるいはタイプ3のアクティブラーニングを20%（15回であればそのうち3回）以上の授業で取り入れることが求められています。

表2 アクティブラーニングの3タイプ

タイプ1〔教員主導〕
双方向のコミュニケーションをともなうもの（質問、対話、宿題、小テスト、クイズなど）。 少人数教育（10人程度）。
タイプ2〔教員学生協働〕
学生間の相互学習をともなうもの（グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなど）。
タイプ3〔学生主導〕
教室外の調査研究をともなうもの（フィールド学習、プロジェクト学習、協働学習、ケースメソッドなど）。 TA活用。

出典：溝上（2014：71）表3-1を基に作成。

文献：溝上慎一，2014，『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。

6. 成績評価方法

成績評価では多様な学習評価方法を組み合わせ、それぞれについて評価手段、実施内容、評価比率、学習目標との対応を明記してください。それによって学生は教員による成績評価のプロセスを容易に把握することができます。

7. 成績評価基準

成績評価は下記の基準を用いて可否を判定するようにしてください。

秀：評点90点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）

優：評点80～89点（学習目標を優秀な水準で達成している）

良：評点 70～79 点（学習目標を良好に達成している）

可：評点 60～69 点（学習目標の必要最低限は達成している）

不可：評点 60 点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）

保留：評点が 30 点以上 59 点までの者に対しては再評価を実施する。

秀、優、良、可が合格、不可が不合格を意味します。また、合格するには所定の時間数（全体の 75%以上）授業に出席し、課題のレポートを提出し、中間試験及び期末試験を受験することが前提です。なお、レポート及び試験等における不正行為が認められた場合、その学生は宮崎大学学務規則により懲戒とし、本科目の成績は不可となります。

8. 参考となる 2023 年度開講の科目

シラバスの作成に当たっては、科目群「現代社会の課題」に属す科目をはじめ、隣接する分野において開設されている既存の科目のものをぜひ参考にしてください。以下はその一例です。WebClass にシラバス検索機能があります。

『私』のキャリアとライフデザインデータサイエンス入門（講義コード：kk7j1、担当者：児玉由紀）

「大学と学生」（講義コード：kk7h1、担当者：藤埴智一）

宮崎大学 シラバス検索

シラバス検索 English

検索 リセット

開講年度 2023年 ▼

担当教員

授業科目

キーワード

学部

基礎教育 教育学部 医学部 工学部 農学部 地域資源創成学部 日本語科目等 畜産別科

教員免許取得科目（農工）

研究科

教育学研究科 看護学研究科 工学研究科 農学研究科 医学獣医学総合研究科 農学工学総合研究科

地域資源創成学研究科

図 1 WebClass のシラバス検索画面

教養教育科目実施要項（未来共創科目 構想・デザイン系／協働・創造系）

1. 未来共創科目の目的

未来共創科目では地域をフィールドとした学びを通じて、能動的に社会の課題に向き合い、長期的視点で未来を展望する力と、多様な他者と協働・共創し社会の発展のために関与する力を育成する。

2. 授業概要

地域及び国際的社會において活躍する人材のキャリア形成に関する学びを通じて、能動的に社会の課題に向き合い、長期的な視点で未来を展望する力（デザイン力）を育成する。（構想・デザイン系）

地域のコミュニティと連携したPBL（プロジェクトベースドラーニング）やアントレプレナーシップ教育を通じて、社会人や地域住民等と協働・共創し、社会の課題の解決に関与できる力を育成する。（協働・創造系）

3. 育成する資質・能力（ディプロマポリシーとの関連）

教養教育科目と本学の教育方針は以下の10項目によって関連付けられます。未来共創科目（構想・デザイン系／協働・創造系）に属す科目はそれぞれ次の5項目に重点を置き、本学の教育目標の達成に貢献します。

表1 ディプロマポリシーとの関連

人間性・社会性・国際性（大学の教育理念）			
構想・デザイン	協働・創造		
		(1) 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
○	◎	(2) チームワーク	他者と協調・協働して行動できる。
		(3) 多文化・異文化理解	多文化・異文化に関する知識を理解できる。
		主体的に学ぶ力	
◎	○	(1) 主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
コミュニケーション能力			
		(1) 言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
○	○	(2) 他者理解・自己表現力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
課題発見・解決力			
		(1) 情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モデルに則って効果的に活用することができる。
◎	◎	(2) 問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決することができる。
知識・技能			
○	○	(1) 文化・社会・自然・地域の理解	文化、社会、自然、地域における基本的な知識を体系的に理解するとともに、自己の存在をそれらと関連づけて理解することができる。
		(2) 専門知識・技能	専門分野に関する知識を理解し、身につけた技能（実践力）を活用できる。

4. 学習目標

上記の「授業概要」及び「育成する資質・能力」は、科目をとおして学生が身につける資質・能力を指しています。そこでこの資質・能力を成績評価に用いる評価の観点として3～6項目程度に要約してください。それが科目の学習目標になります。

評価の観点に関する表現を以下に例示します。語尾を「～することができる」と表記することによって学生に学習の目標をより明確に伝えることができます。

<例>

- ・就業・職業観を醸成し、自身のキャリア選択を主体的に捉え、考えていく力を養う。
- ・地域への関心を高めるとともに、ライフスタイルも含めた地域・社会人との継続的な関係性を築いていく力を身に付ける。
- ・地域調査の基本プロセスを理解し、グループワークによる問題（課題）解決に向けた共同学習を遂行できる。
- ・地域における様々な活動主体（行政、事業者、活動家）と協調して企画や運営に取り組むことができる。

5. 授業計画

授業計画では、科目全体をとおして学生が取り組む課題の数や内容を明記してください。学生がその活動を事前に把握できるように、各回の授業内容と授業方法では、各回のトピックと活動に加え、課題解決のプロセスについても説明してください。また、授業時間外の学習活動について、標準的な学習時間とともに、具体的な内容を記載してください。

資料「令和6年度以降の学士課程編成の方針」に明記されているとおり、本学の学士課程教育は教育方法として「ディスカッション、ディベート、グループ活動、プレゼンテーションなどを中心とした能動的学修（アクティブラーニング）」を積極的に導入し、主体的な学びへと教育の質的転換を図ることを基本方針としています。その実現に向けてアクティブラーニング導入率80%を目標に掲げています。

未来共創科目はその中心的役割を担う科目群のひとつであり、構想・デザイン系及び協働・創造系科目ではすべての授業において以下の表2が示すタイプ2以上のアクティブラーニングを取り入れ、教育の質的転換へ貢献することが期待されています。

表2 アクティブラーニングの3タイプ

タイプ1〔教員主導〕
双方向のコミュニケーションをともなうもの（質問、対話、宿題、小テスト、クイズなど）。 少人数教育（10人程度）。
タイプ2〔教員学生協働〕
学生間の相互学習をともなうもの（グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなど）。
タイプ3〔学生主導〕
教室外の調査研究をともなうもの（フィールド学習、プロジェクト学習、協働学習、ケースメソッドなど）。 TA活用。

出典：溝上（2014：71）表3-1を基に作成。

文献：溝上慎一，2014，『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。

6. 成績評価方法

成績評価では多様な学習評価方法を組み合わせ、それぞれについて評価手段、実施内容、評価比率、学習目標との対応を明記してください。それによって学生は教員による成績評価のプロセスを容易に把握することができます。

7. 成績評価基準

成績評価は下記の基準を用いて可否を判定するようにしてください。

- 秀：評点 90 点以上（学習目標を特に優秀な水準で達成している）
- 優：評点 80～89 点（学習目標を優秀な水準で達成している）
- 良：評点 70～79 点（学習目標を良好に達成している）
- 可：評点 60～69 点（学習目標の必要最低限は達成している）
- 不可：評点 60 点未満（学習目標の必要最低限を達成していない）
- 保留：評点が 30 点以上 59 点までの者に対しては再評価を実施する。

秀、優、良、可が合格、不可が不合格を意味します。また、合格するには所定の時間数（全体の 75%以上）授業に出席し、課題のレポートを提出し、中間試験及び期末試験を受験することが前提です。なお、レポート及び試験等における不正行為が認められた場合、その学生は宮崎大学学務規則により懲戒とし、本科目の成績は不可となります。

8. 参考となる 2023 年度開講の科目

シラバスの作成に当たっては、地域資源創成学部の専門科目をはじめ、隣接する分野において開設されている既存の科目のものをぜひ参考にしてください。以下はその一例です。WebClass にシラバス検索機能があります。

「国内インターンシップ（夏季）」（講義コード：iC565、担当者：桑畑夏生／根岸裕孝）

「PBLII」（講義コード：iC750、担当者：瀬川直樹／出口近士）

図1 WebClass のシラバス検索画面